Course number		U-LAS70 10001 SJ50									
	の倪点から ILAS Seminar :Thinking Science and and					ctor's job title, epartment liation Institute for Research in Humanities Professor, SETOGUCHI AKIHISA					
Group	Seminar	minars in Liberal Arts and Sciences Number					2 Number weekly time block				1
Class style	semir (Face	nar e-to-face course	Year/se	Year/semeste		2025 • First	025 • First semeste		Quota (Freshman)		12 (8)
Target year	Mainly	y 1st year students	st year students Eligible student			For all majors			eriods $W\epsilon$		1.5
Classroom Seminar room 3 (room 330), Institute for Research in Humanities Main Bldg. (Main Campus) Language of instruction Japanese											
Keyword	監視 / 技	技術 / フーコー									

[Overview and purpose of the course]

この授業では、ミシェル・フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』(1975年)を読む。18世紀末のヨーロッパでは、それまでの残酷な刑罰から、監禁と監視による刑罰を行う法制度へと移行した。これは工場や学校のような、一人ひとりの人間が監視と規律化のもとに生きる社会の成立と結びついている。この授業では、このテキストを現代の科学技術社会を理解する手がかりとして読解していきたい。

現代社会においては、いたるところで空間の監視が行き渡っている。最近ではCOVID-19パンデミックにおける感染症サーベイランスを思い起こせばよい。このような科学的知識にもとづく人間のデータ化と管理は、じつは「監獄の誕生」からはじまっているのである。

本書の読解を通して、科学技術がつくる空間とは何か、技術とは何か、人間とは何かという問いを考えていきたい。このような人文学の問いは、社会にとっての科学技術の意味を考えるためにも有効なはずである。

[Course objectives]

- 一冊のテキストを読み、著者の主張を理解する。
- 人文学的な文章を読み解いて、論理的に表現できるようになる。

[Course schedule and contents)]

第1回 ガイダンス

セミナーの概要、進め方について説明する。

第2回~第14回

『監獄の誕生』を1章ずつ読み進めていく。

参加者による内容紹介、内容の確認の議論という形式で進める。 目次は以下の通り。

第1部 身体刑

第1章 受刑者の身体

第2章 身体刑の華々しさ

第2部 処罰

第1章 一般化される処罰

Continue to ILASセミナー : 科学技術を考える - 人文学の視点から(2)

ILASセミナー :科学技術を考える - 人文学の視点から(2)

- _____ 第2章 刑罰のおだやかさ

第3部 規律・訓練

第1章 従順な身体

第2章 良き訓育の手段

第3章 一望監視方式

第4部 監獄

第1章 「完全で厳格な制度」

第2章 違法行為と非行性

第3章 監禁的なるもの

第15回フィードバック

おもなテキストのほか、関連する論文などを読むこともある。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

- 出席と授業中の報告(60点)
- 課題レポート(40点)

[Textbooks]

ミシェル・フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』(2020)(初回に利用する部分を配布するので、 事前に購入する必要はない。)

[Study outside of class (preparation and review)]

- 参加者はテキストを読んでくる。
- 発表者はレジュメを作成する。

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]